

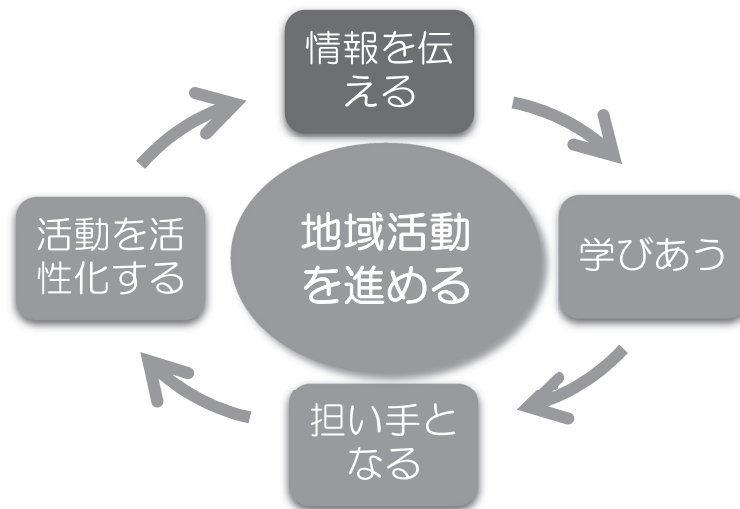
## 基本目標 3

## 区民の積極的な地域活動を進める

### 取り組みの方向性(1)

### 福祉の施策や活動に関する情報を伝える

より多くの区民が地域福祉について理解し、地域活動に参加していくためには、地域福祉の理念や活動が広く区民に知られ、情報を必要とする人に必要な情報が確実に届くことが大切です。区民に情報が効果的に伝わる提供方法や、情報を通じて地域の活動に参加しやすくなる工夫などが求められます。



### これまでの取り組みと成果

【平成 27 年度までの到達目標】（前期計画から引用）

- ◆ 必要な人や知ってもらいたい人に、地域福祉に関する施策や活動の情報が概ね周知されています。

「すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム」を、前期計画の 5 年間に毎年開催し、毎回 400 名前後の方が参加しました。その中で、分科会やテーブルディスカッションが地域の課題解決の話し合う場となり、ボランティア活動や地域福祉への関心を持つ機会となっています。

また、区報や「社協だより」などのお知らせ、各種施策のガイドブックなどの紙媒体での情報発信に工夫を加えてきました。さらに、ウェブサイトへの掲載や Facebook<sup>1</sup>などの SNS による発信も行っています。

一方で、民生委員・児童委員など地域の活動者は人と人の直接の情報交換を大事にしている、区や社会福祉協議会の情報を地域に伝える一番の発信役として貴重な存在となっています。

#### 《ヒアリングから》

- 地域福祉・ボランティアフォーラムの参加者がボランティアに登録し、地域活動につながった。（社会福祉協議会）
- 広報を見て申し込みや募金への協力があった。また、活動者からの口コミで情報が伝わり、それにより問い合わせがきた。（社会福祉協議会）
- 区報の内容や新聞の内容は送られてくる音声テープ「声の便り」や都から送られてくる CD で聞いている。（障害者団体）

#### 《アンケートから》

- 多くの民生委員の情報共有の場として、「町会・自治会」「個人的なつながり、友人・知人を通して」「各支援センター」が、重要となっている。（民生委員・児童委員）

<sup>1</sup> Facebook(フェイスブック)：実名でのやりとりを原則とする SNS (P13 注 2)。区の公式ページも開設されています。

### これからの課題

区報や各たより、ウェブサイト等により福祉の情報が発信され、見られる状態になってはいますが、実際に知ってもらいたい人や必要としている人に伝わっていない状況があります。

新聞を購読していない人や、インターネットが使えない人などもあり、特に障害者や孤立しがちな高齢者などに情報が届いていないことが懸念されます。

よい活動をしていても、周知の不足で参加に結びつかないケースもあります。情報を発信するだけでなく、どのように情報を伝達していくかの工夫が必要です。

担い手の確保や効果的な情報の周知のためには、活動団体の情報交換の場を増やし、人から人へしっかり情報を伝えていくことも求められます。

#### 《ヒアリングから》

- PRは行っているが、まだまだ一般の方々に社協は知られていない。また、ネットではニュアンスが伝わりにくい。(社会福祉協議会)
- 墨田区の図書館は福祉的機能に力を入れているが、あまりそうした取り組みは知られていない。また、障害者団体に加入していない障害者には、情報が届いているかどうか分からない。(障害者団体)

#### 《アンケートから》

- 情報を発信しても直接参加にはつながりにくい。(高齢者みまもり相談室)
- 児童館が何をしているところかのPRはまだ工夫が必要。児童館同士で集まり、情報交換できる場がほしい。地域の方に事業が浸透していない。(児童館)

### 平成32年度の目指すべき地域の姿

- ◆ 誰もが地域福祉に関する施策や活動についての情報を、必要に応じて得ることができるようになっています。また、知ってもらいたい人に情報が伝わっています。

### これからの取り組み

区や社会福祉協議会など、地域福祉を推進する機関や団体等が連携し、区報をはじめ区、各機関・団体のウェブサイト、各種の会合や事業・活動の実施の機会、口コミなど、あらゆる機会で地域福祉に関する施策や地域活動の周知に努めます。また、地域活動を推進する上で必要な情報を共有するために、活動にかかわる区民、地域団体等を含む関係者・機関でプラットフォームをつくっていきます。地域活動に踏み出すきっかけとして、身近な福祉サービスや地域活動などの情報のやりとりを地域の中で活発に行っていきます。



すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムでのディスカッション

## 各主体の役割と取り組み

### 区の役割と取り組み

#### ○役割

- ・区民や地域団体等が地域福祉活動を行っていくために必要な情報を積極的に提供していきます。

#### ○取り組み

#### 15 すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムの開催 (厚生課)

事業概要	地域福祉の推進及び「すみだ・ボランティアの日」の啓発を兼ねた地域福祉・ボランティアフォーラムを開催します。(墨田区社会福祉協議会すみだボランティアセンターと共催)	
	これまでの実績	事業目標 (平成 28 年度から平成 32 年度)
	<b>【数値的な成果】</b> 平成 23 年度から 27 年度まで 5 回開催し、延べ約 1,900 名の参加者がありました。 <b>【質的な成果】</b> 10 代から 80 代の方が参加され、ボランティア活動や地域福祉への関心を持ってもらう機会となりました。	<b>【数値的な目標】</b> 毎年開催します。 <b>【質的な目標】</b> 地域福祉関係者や地域福祉に関心のある人たちが情報交換をしたり、課題解決のためのヒントを得たりすることで、地域福祉の推進を図ります。ボランティアについての認識を深めてもらい、ボランティア活動の促進を図ります。

● 区の施策情報の発信

関係各課

### 社会福祉協議会の役割と取り組み

#### ○役割

- ・自身もつ情報発信手段を活用して、地域福祉に関する施策や地域活動についての周知活動を推進します。

#### ○取り組み

#### 16 社会福祉協議会の活動情報の発信 (社会福祉協議会 地域福祉活動担当)

事業概要	墨田社協だより、すみだボランティアだより、ハート・ライン 21 会報、ミニサポート事業会報などを発行・配布します。	
	これまでの実績	事業目標 (平成 28 年度から平成 32 年度)
	<b>【数値的な実績】 (H26)</b> ホームページアクセス数：23,044 回/年 フェイスブック発信:更新 2 回/月 社協だより：5 回/年 各 78,000 部 「ボランティアだより」作成配布:12 回/年 ハート・ライン 21、ミニサポート、ファミリー・サポート・センター合同会報：5 回/年 各 1,500 部 <b>【質的な実績】</b> 社協だよりのフルカラー化が好評を得ています。これまでつながりの弱かった若い世代や社会人に対しての情報発信の充実と災害時の情報発信の手段として、「公式フェイスブックページ」の運用を本格化しました。視覚障害者向けテープのデジタル化 (CD)を行いました。	<b>【質的な目標】</b> 広報紙、ホームページ、SNSなどいろいろな媒体を活用し、対象者の必要な情報を提供していきます。企業、医療機関などの協力により、配布場所を増やしていきます。

## 民生委員・児童委員の役割と取り組み

### ○役割

- ・福祉の施策や活動に関する情報を、地域で発信していきます。

### ○取り組み

必要な取り組み	区や社会福祉協議会から得た情報を、地域住民とのつながりを活かして発信し、必要な情報が伝わっていくようにします。
---------	---

## 社会福祉法人（福祉施設）の役割と取り組み

### ○役割

- ・地域で身近にある福祉資源として、福祉施設の機能などの福祉に関する情報を地域住民に周知していきます。

### ○取り組み

必要な取り組み	福祉施設を地域住民に知ってもらうために、講座やイベント等に地域住民を紹介します。
取り組みの実例	施設の役割や機能を知ってもらうためにイベントを開催し、模擬店（地元町会の協力）や地域のボランティアサークルの発表とともにパネル展示をしています。[東京清風園（特別養護老人ホーム）]
	「おおぞらフェスティバル」で施設を公開し、活動の様子の紹介、展示や作品販売などを行っています。[すみだステップハウスおおぞら]

## ボランティアの役割と取り組み

### ○役割

- ・障害者などに対して、情報を得るための支援を行います。

### ○取り組み

必要な取り組み	点訳、録音、手話などにより、視覚障害者、聴覚障害者などが必要な情報を得られるようにします。
取り組みの実例	点訳（ひかり会、きつつき）、朗読・録音・音訳（くさぶえ、声、かりん）、手話（手話サークルすみだ）、要約筆記（ほたる）、情報交換（3 SUN ネット）などのボランティア団体がすみだボランティアセンターに登録し、情報発信・情報伝達に尽力しています。
	精神障害の方向けの情報を集めた独自の情報紙を作成し、精神障害者に配っています。[墨田区精神障害者を守る家族会 三浦八重子さん]

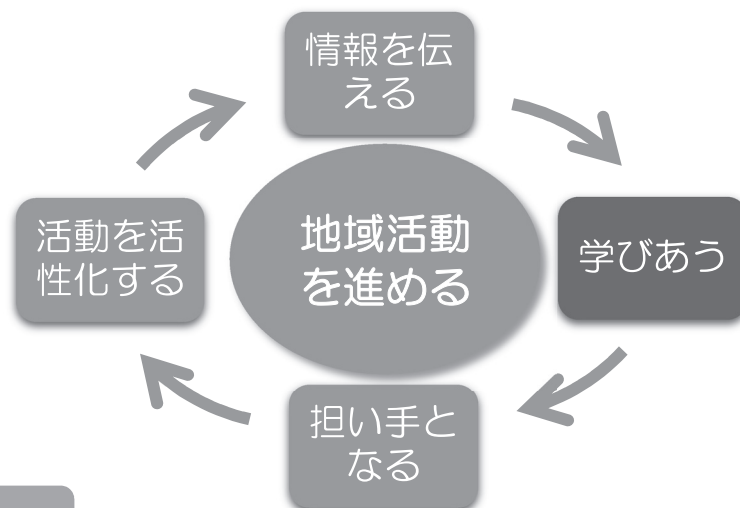
### 基本目標 3

## 区民の積極的な地域活動を進める

#### 取り組みの方向性(2)

#### 地域福祉に関する学びあいを推進する

より多くの区民が地域活動に参加していくためには、区民の地域福祉に対する理解や関心を高め、身近な課題の解決のために取り組んでいこうという意欲を育てていくことが重要です。そのためには、各主体が連携を図り、子どもから高齢者までの各世代においてさまざまなテーマで福祉教育が推進され、区民が地域の課題に気づき、取り組み、解決する中で学びあっていくことが求められます。



#### これまでの取り組みと成果

【平成 27 年度までの到達目標】（前期計画から引用）

- ◆ 地域福祉への関心が各世代を通じて高まっています。
- ◆ 身近な福祉課題について、関係する区民や機関が集まり、解決にむけて取り組むことにより、区民同士が学びあい、地域福祉の担い手として成長していける場（福祉教育プラットフォーム）が設けられています。
- ◆ 各世代を通じた段階的、継続的な福祉教育プログラム体系の構築により、年齢層や経験に応じて、多様な福祉教育が受けられるようになっています。

福祉教育の場として、小・中・高等学校でボランティアスクールを実施し、実践的な内容から福祉的な学びが展開されています。ボランティア協力校も 2 校となり、ボランティア活動や福祉教育へ協力等を行っています。

また、ボランティアや職場体験として、小・中・高等学校の児童・生徒を受け入れ、実際に利用者とはふれあう機会を提供している施設もあります。

手話講習会やボランティア入門講座など、ボランティア教育プログラムを開催し、区民が活動に参加するためのきっかけづくりとなっています。

#### 《ヒアリングから》

- ボランティアスクールでは、障害者などが生徒に話をする。生徒からすれば当たり前前のことが障害者からすれば当たり前ではなく、逆に生徒ができないだろうと思っていたことが、自分たちと同じようにできていたという学びがあった。（社会福祉協議会）

#### 《アンケートから》

- 利用者が子育て支援団体を結成して事業に関わっている。（子育て支援総合センター）

## これからの課題

小・中・高等学校でのボランティア協力校を増やし、活動を広げていくことが必要です。福祉分野と教育分野の連携を福祉教育という視点からいっそう強めていくことが求められています。

ボランティア育成プログラムの講座では、手話のできる人が増えないなど、ボランティアの数が足りないという声がありますが、以前は定員を超えていた申し込みが、近年は少なくなっており、課題となっています。

福祉教育プラットフォームについては、小地域福祉活動が地域住民の学びあいの場になっており、さらに活動を広げ、充実させていくことが必要になっています。



### 《ヒアリングから》

- 継続的に活動を行っていく上で、学校の先生の異動によりつながりが途切れてしまうことが課題である。また、校長や副校長の異動があると、その学校全体の考え方にも変化が生じ、従来の形が継続されるとは限らない。異動があっても、いかにつながりを保持していくかが課題である。（社会福祉協議会）
- 学校は他者が入りにくい状況にあり、もう少し教育委員会や学校との連携が必要である。地域の人をコーディネーターとして養成しても、その人が学校とのつながりが薄いと、どうしても教育委員会との連携が必要となる。（社会福祉協議会）

### 《ヒアリングから》

- 手話のできる人が増えないと、コミュニケーションが取れず、地域に参加するのは難しい。（障害者団体）

## 平成32年度の目指すべき地域の姿

- ◆ 地域福祉への理解と関心が各世代において高まっており、ボランティア活動などに参加する人が多くなっています。

## これからの取り組み

学校、地域、企業・事業所、社会福祉協議会、区が連携し、ボランティアなどの体験学習や地域との交流等を通じて、子どもの福祉教育を推進していきます。ボランティア育成プログラムでは、参加者を増やす取り組み、参加者を実際の活動につなげる取り組みを行っていきます。

また、あらゆる世代の区民が、身近な地域の課題に気づき、その解決に向けて取り組むこと等を通じて、区民同士が学びあう機会・場（福祉教育プラットフォーム）づくりを進め、区民一人一人が地域福祉の担い手として、主体的に行動する力を育成していきます。

## 各主体の役割と取り組み

### 社会福祉協議会の役割と取り組み

#### ○役割

- ・地域の関係機関・団体等との連携・協働により、福祉教育プラットフォームの形成を推進します。

#### ○取り組み

##### 17 小・中・高等学校での「福祉教育」プログラムの実施

(社会福祉協議会 ボランティアセンター、地域福祉活動担当)

事業概要	福祉教育を推進する学校で、多様な福祉教育プログラムを実施します。	
	これまでの実績	事業目標（平成 28 年度から平成 32 年度）
	<p>【数値的な実績】(H26)</p> <p>[ボランティアセンター]</p> <p>ボランティアスクール開催校</p> <p>小学校 8校 17回</p> <p>中学校 4校 15回</p> <p>高等学校 2校 15回</p> <p>[地域福祉活動担当]</p> <p>第三吾嬬小学校での拠点型ふれあいサロン 月1回(年間12回)</p> <p>【質的な実績】</p> <p>[ボランティアセンター]</p> <p>ボランティアスクールの実施により、地域のボランティアと学校とのつながりが生まれました。体験用具(アイマスク)を整備し、福祉体験がスムーズに進められました。</p> <p>[地域福祉活動担当]</p> <p>第三吾嬬小学校でのふれあいサロン活動において地域の高齢者と児童が定期的に交流することで、挨拶など学外での交流もできつつあります。</p>	<p>【数値的な目標】</p> <p>[地域福祉活動担当]</p> <p>小学校等での拠点型ふれあいサロンを拡大します。(年1か所)</p> <p>【質的な目標】</p> <p>[ボランティアセンター]</p> <p>プログラムの内容を検討し、新たなプログラムを増やします。</p> <p>[地域福祉活動担当]</p> <p>地域の高齢者との交流を通じ、自分たちも地域の一員であり、支えあう関係であることを理解し、見守りや声かけなどの地域福祉活動に積極的に取り組みます。</p>

##### 18 ボランティア育成プログラムの充実

(社会福祉協議会 ボランティアセンター)

事業概要	入門講座をはじめ、地域のニーズに対応した各種講習講座を充実し、ボランティアの育成を推進します。	
	これまでの実績	事業目標（平成 28 年度から平成 32 年度）
	<p>【数値的な実績】</p> <p>手話講習会 40回 6クラス</p> <p>音訳講習会 23回 1クラス</p> <p>点訳講習会 20回 2クラス</p> <p>要約筆記講習会 15回 1クラス、フォロー講座 2回</p> <p>体験講座(手話 2回、点訳・音訳 1回) 3回</p> <p>ボランティア入門講座 2回</p> <p>シニアボランティア入門講座 1回</p> <p>ボランティアスクール 1回</p> <p>【質的な実績】</p> <p>受講者一人一人に丁寧なフォローができています。講座を受けた方にボランティア団体を紹介し、実際の活動につなげました。</p>	<p>【質的な目標】</p> <p>ニーズに応じたボランティアを養成します。</p> <p>東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、ボランティアに意識づけをします。受講者の確保に努めます。</p>

● 小・中・高等学校での「ボランティア協力校」の推進

ボランティアセンター

## ボランティア・NPOの役割と取り組み

### ○役割

- ・地域の課題に主体的に取り組んでいる経験を活かし、地域福祉のニーズを伝えていきます。

### ○取り組み

必要な取り組み	ボランティア育成プログラムや各種の研修会など、さまざまな機会を通じて活動の必要性や経験を伝え、地域住民の学びあいを進めます。
---------	--

## 社会福祉法人（福祉施設）の役割と取り組み

### ○役割

- ・施設の持つ専門性を活かし、地域住民の学びあいの場をつくります。

### ○取り組み

必要な取り組み	講座の開催やボランティアの受け入れにより、福祉の知識を深める機会を提供します。
取り組みの実例	医療や健康、栄養などを学ぶ、賛育会病院の「健康講座」に協力し、地域住民に介護等の知識を広めています。[たちばなホーム（特別養護老人ホーム）]
	ボランティアとして小中高の生徒、専門学校生、大学生、教員のほか、地域住民や企業の社員などを幅広く受け入れ、福祉について学ぶ場を提供しています。[こひつじ保育園]
	職場体験として中学生を受け入れ、授産作業の体験と利用者とのコミュニケーションを図り、知的障害への理解を深めてもらっています。[墨田さんさんプラザ（就労継続支援B型）]

## 各支援センター・児童館の役割と取り組み

### ○役割

- ・専門機関として有している知識・情報を提供し、各機関と連携して福祉教育プラットフォームづくりを進めます。

### ○取り組み

必要な取り組み	専門機関として、地域福祉活動の実践に必要な知識を学ぶ機会を設けます。
	地域の各機関と連携し、福祉教育プラットフォームの環境づくりを進めます。
取り組みの実例	成年後見制度の講座を権利擁護センターと協力して開催しており、地域住民の学びあう機会になっています。[はなみずき高齢者支援総合センター]
	地域連絡懇談会を年2回開催し、近隣の学校、民生委員・児童委員、ボランティア団体、関係施設、町会関係者との情報交換やお互いの地域資源を知るための勉強会を行っています。[本所賀川記念館（児童館）]



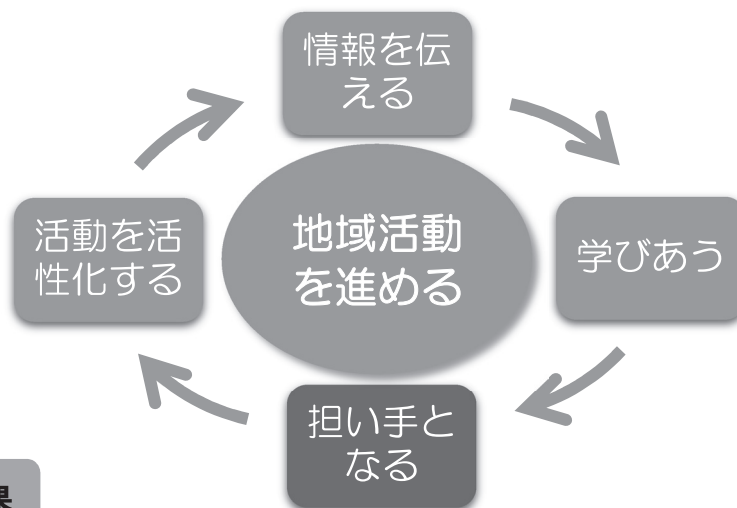
## 基本目標 3

## 区民の積極的な地域活動を進める

### 取り組みの方向性(3)

### 地域福祉の担い手を育成・支援する

地域福祉の担い手として、地域では、町会・自治会からの推薦に基づく民生委員・児童委員をはじめ、ボランティアセンターに登録しているボランティアなどが活発に活動しています。これからの地域福祉をより充実させ、よりよい地域づくりを進めていくためには、幅広い世代が地域福祉の担い手として活躍できるように支援し、地域づくりの核となる人材を育成する必要があります。



### これまでの取り組みと成果

【平成 27 年度までの到達目標】（前期計画から引用）

- ◆地域における民生委員・児童委員の存在意義や重要性が広く周知されています。
- ◆ボランティア活動の参加促進が図られ、地域福祉の担い手が増えています。
- ◆地域で福祉活動を担う人など地域福祉の推進役となる地域福祉活動コーディネーターが育成され、地域で活躍しています。

これまで、民生委員・児童委員の活動内容をPRし、地域に広く民生委員・児童委員の必要性の周知を図ってきました。また、増加する子育てニーズに対し、子育てサポーターの育成に努め、これまで100名を超える方が養成講座を修了しています。

ボランティアを育成するための講座も手話や点訳、音訳、要約筆記など各種講座が開催され、講習会の受講者が実際にボランティア活動に関わり、活躍しているなど、地域福祉の担い手が徐々に育成されつつあります。また、多くの福祉施設でボランティアを受け入れており、小学生から高校生までの児童・生徒や地域住民に活動の場が用意されています。

大学生が中・高生や小学生の学習会のボランティアとして関わっている児童館もあります。

#### 《ヒアリングから》

- ・おもちゃサロンでは必ずボランティアを入れて活動している。実際にボランティアをしている人も障害児を育てた経験から、母親へアドバイスして寄り添っている。（社会福祉協議会）

#### 《アンケートから》

- ・約80%の施設が、ボランティアを「受け入れている」とし、受け入れている施設では、全施設で「小中高の生徒」を受け入れ、「地域住民」も約65%。具体的内容としては、利用者・園児とのふれあいが多く、活動全般の内容や、生活に関する部分の補助など、多種多様な内容となっている。（社会福祉法人）

## これからの課題

それぞれの活動の充実と積み重ねにより、地域福祉の担い手は育成されつつありますが、民生委員・児童委員の不在地区があったり、ボランティア講習会への参加人数が定員に満たなかったりしているなど、地域福祉の担い手はまだまだ足りない状況です。

また、ファミリー・サポート・センターでは、支援をしてほしい会員が多くいる一方で、支援する側の会員が不足している状況にあります。

高齢者みまもり相談室でも、見守り協力員の成り手不足があり、1対1の見守り活動が進んでいません。

今後も、地域福祉の担い手の育成と拡充が課題となります。

### 《ヒアリングから》

- 地域福祉活動リーダーとして、地域のリーダー格をどのように発掘していくかが課題。(社会福祉協議会)
- 民生委員・児童委員はやりがい大きいですが、負担感も大きい。地域や町会が民生委員の役割を理解し、協力してくれることが大事。(民生委員・児童委員協議会会長会)

### 《アンケートから》

- 若い人に依頼するのが難しく、見守り協力員自身が高齢者ということが多い。(高齢者みまもり相談室)
- 支え手の側が不足しているので、地域の方に一層の協力をお願いしたい。(子育て支援総合センター)

## 平成32年度の目指すべき地域の姿

- ◆ 地域福祉活動に継続的に携わる人が地域に豊富にいます。

## これからの取り組み

地域の民生委員・児童委員について、地域での理解と協力が広がっていくよう、活動内容のPRなどを行っていきます。

また、各種講座の開催や活動への参加促進に努め、地域でのプラットフォームづくりの核となる人材を地域福祉活動リーダー<sup>1</sup>として育成し、その活動を支援していきます。

さらに、子育てサポーターや見守り協力員の養成などに努め、地域でそれぞれの経験や知識・技術が活かせるような活動の機会を創出していきます。

<sup>1</sup> 前期計画では「地域福祉活動コーディネーター」としていましたが、役割をよりイメージしやすい名称に改めました。

## 各主体の役割と取り組み

### 区の役割と取り組み

#### ○役割

・ 民生委員・児童委員に関する支援やPRを行うとともに、さまざまな地域課題に応じた活動者の発掘や育成を進めます。

#### ○取り組み

##### 19 民生委員・児童委員の育成と相談機能の強化

(厚生課)

事業概要	地域の重要な福祉ボランティアである民生委員・児童委員の育成のため、活動能力の向上に資する研修や施設見学を行います。また、その存在や重要性をPRします。	
	これまでの実績	事業目標（平成28年度から平成32年度）
	<p>【数値的な実績】</p> <p>(H26) 東京都開催の研修会 8回 参加者 113名 区独自の研修会 1回 参加者 185名 区役所でのパネル展示日数 7日 改選後委嘱者数 9名 (H25年12月～H27年12月)</p> <p>【質的な実績】</p> <p>民生委員活動について、区報およびイベントでのパネル展示でPRしました。 すみだまつりにブースを出展し、民生委員・児童委員活動を広く区民にPRしました。 東京都が開催する研修会に加え区独自に「見た目問題」についての研修を実施したほか、障害者支援施設への施設見学会を実施しました。</p>	<p>【数値的な目標】</p> <p>重要性のPRのためイベントでのパネル展示日数を増やしていきます。 新規の委嘱者を増やしていきます。</p> <p>【質的な目標】</p> <p>東京都開催の研修会参加により、民生委員・児童委員個々の能力向上を図ります。 各専門部会・地区連絡協議会（四者協）での学びについて、地区会・機関紙で内容を報告・共有し、地域での各民生委員・児童委員活動に活かしていきます。</p>

- 子育てサポーターの育成・活用
- 認知症サポーターの養成
- 市民後見人の育成・支援（再掲）
- 介護支援ボランティア・ポイント制度

子育て支援総合センター  
高齢者福祉課  
厚生課  
介護保険課

### 社会福祉協議会の役割と取り組み

#### ○役割

・ ボランティア活動者や地域福祉活動リーダーの発掘・育成を進めます。

#### ○取り組み

##### 20 地域福祉活動リーダーの発掘・育成

(社会福祉協議会 地域福祉活動担当)

事業概要	小地域福祉活動を実践する人など、地域の福祉活動に積極的に参加し、地域づくりの核となる、住民による地域福祉活動のリーダーを育成します。	
	これまでの実績	事業目標（平成28年度から平成32年度）
	<p>【数値的な実績】</p> <p>地域福祉活動セミナーの実施（2回） 参加 4人 小地域福祉活動連絡会 4回実施 支えあいマップ講座 おもちゃサロンボランティア講座</p> <p>【質的な実績】</p> <p>活動に即した内容の講座を実施することで、地域での活動がさらに活性化しています。また、講座に参加した活動者がリーダー役となって地域活動のアドバイスをしています。</p>	<p>【数値的な目標】</p> <p>地域福祉活動セミナーの実施 小地域福祉活動連絡会の実施 町会・自治会向け支えあいマップ講座</p> <p>【質的な目標】</p> <p>地域課題を住民同士で解決できるようにアドバイスできる地域福祉活動リーダーを増やします。</p>

- ボランティア育成プログラムの充実（再掲）
- シニア世代のボランティア活動の参加促進

ボランティアセンター  
ボランティアセンター

## 町会・自治会の役割と取り組み

## ○役割

- ・ 民生委員・児童委員の役割について理解を深め、活動に協力します。

## ○取り組み

必要な取り組み	町会・自治会と民生委員・児童委員との相互理解や情報共有の場を設け、地域の課題に対し、協力して活動していきます。
---------	---

## 社会福祉法人（福祉施設）の役割と取り組み

## ○役割

- ・ 施設での実践活動から地域福祉の担い手として成長して行けるよう、ボランティア等の育成に努めます。

## ○取り組み

必要な取り組み	ボランティアをした人が実践から学びを得て、地域福祉への理解を深め、さらなる活動へつながっていくようなしくみをつくります。
取り組みの実例	ボランティアの活動後に発見や気づきが得られるよう振り返りの時間を持っています。[興望館保育園]
	ボランティア同士のつながりをつくるため、交流会を行い、それぞれの活動への思いを共有できるようにしています。[たちばなホーム（特別養護老人ホーム）]

## 各支援センターの役割と取り組み

## ○役割

- ・ 養成講座や研修を実施し、地域福祉の担い手の発掘と育成に努めます。

## ○取り組み

必要な取り組み	認知症サポーター、見守り協力員、子育てサポーターなどの養成や研修を行い、地域福祉の担い手を発掘していきます。
取り組みの実例	認知症とその家族のために、認知症について偏見を持たず、温かい目で見守れるよう、正しい知識や支援のあり方を学ぶための認知症サポーター養成講座を行っています。[各高齢者支援総合センター]
	子育てのお手伝いが必要な方と、お手伝いしてくださる方をつなぐため、子育ての経験や知識を活かして地域で活動する「子育てサポーター」の養成講座を開催しています。[子育て支援総合センター]

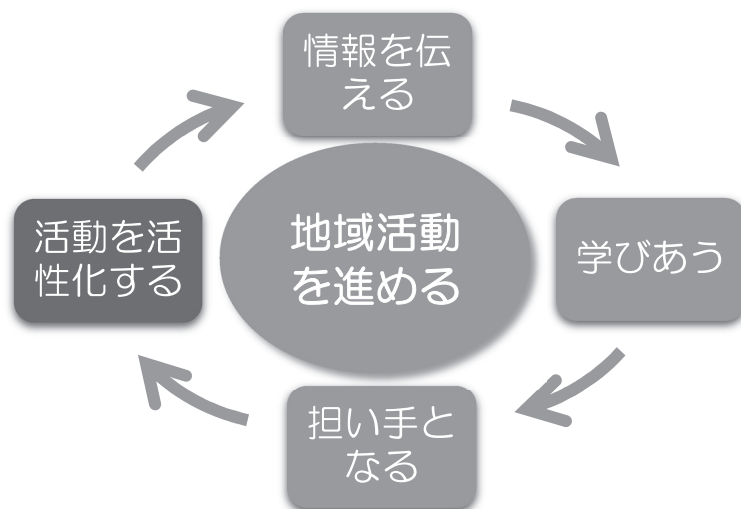
### 基本目標 3

## 区民の積極的な地域活動を進める

#### 取り組みの方向性(4)

#### 地域活動を活性化させる

区民にとって、もっとも身近なコミュニティである町会・自治会における地域活動を強化・推進することで、住民の地域への参加、地域課題の解決への参画が進みます。また、ボランティアやNPO、企業の社会貢献活動などが活性化し、魅力的な取り組みがたくさん行われることで、より多くの区民が積極的に福祉活動に参加し、さらに活性化していくという好循環が生まれます。



#### これまでの取り組みと成果

【平成 27 年度までの到達目標】（前期計画から引用）

- ◆ 町会・自治会活動に参加している人が多くなっています。
- ◆ 地区ごとに町会とマンションなどの集合住宅との交流・相互支援が進んでいます。
- ◆ お祭りなどの地域イベントや地域の防火・防犯活動などの活動が活発になっています。

墨田区では、人口と世帯数の増加から、町会・自治会に加入する世帯も増えています。また、区民にとって最も身近なコミュニティである町会・自治会の地域福祉活動を推進してきたことで、災害時のサポート隊や自主的見守り活動などが各地域で取り組まれており、障害者と一緒になった活動も行われています。

また、多くの福祉施設や児童館、高齢者支援総合センターなどで、住民によるボランティアを受け入れており、ボランティアの活動機会が地域で確保されています。さらに、地域の企業等による講座や、福祉施設による地域の企業の新入社員研修など、地域と企業による連携も行われています。

このほか、多くの福祉施設では、夏祭りやイベントなどで施設を地域に開放し、その準備段階から地域との交流を盛んに行っています。

#### 《ヒアリングから》

- 町会や見守り活動において、企業による熱中症対策の講座や、接骨院による体操などを行っている。（社会福祉協議会）
- 町会の祭りや夜間パトロールに地域の方からの誘いがあり、とても嬉しかった。町会の避難訓練でも、町会の人たちと一緒に活動できたことが良かった。町会の一員として対応してくれたのが嬉しかった。（障害者団体）

#### 《アンケートから》

- 75%以上の施設が、利用者と地域住民の交流活動を「行っている」とし、約65%の施設が地域住民のボランティアを受け入れている。（社会福祉法人）

### これからの課題

町会・自治会への加入世帯数は増加している一方で加入率は10年前と比較すると減少し、70%以下となっています。その中で、町会・自治会の高齢化や活動する人の固定化など、活動が停滞する懸念があります。活動にたくさんの住民を巻き込み、多様な意見を取り込み、組織として世代交代していくことが課題となります。町会・自治会ごとに活動内容の差が見られることから、成功事例を広めていくために町会同士のつながりづくりも必要です。

また、再開発などによりマンション等の建設が進む中、従来の住民と新しく住み始めた住民との交流が難しい、若い人が地域とのつながりを持ちたがらないなど、地域におけるコミュニティの形成が課題となっています。

#### 《ヒアリングから》

- ・マンションに住む若い人たちは、昔から地域に住む人々と意識が異なり、地域とのつながりを持ちたがらないことが多い。(民生委員・児童委員協議会会長会)

#### 《アンケートから》

- ・「オートロックのマンションが増え、新しい住民とつながりが作りにくくなっている」が約75%で、「地域・新住民との交流」が課題となっている。(民生委員・児童委員)
- ・役員が高齢化して既存の活動で精一杯の町会もある。(高齢者みまもり相談室)

### 平成32年度の目指すべき地域の姿

- ◆ より多くの区民が地域活動に参加し、地域で活躍しています。

### これからの取り組み

地域の課題を解決し、よりよい地域づくりを進めるために、町会・自治会活動などのコミュニティ推進活動を強化するとともに、ボランティアやNPO、企業等の活動を支援、紹介して、地域や区との連携・協働を進めていきます。また、現在行われている活動にプラットフォームという支援を加えて発展させていくとともに、地域住民間の交流などの新たな取り組みを進め、区民が気軽に参加し、つながることのできる機会を増やします。



ブリリアふれあいプラチナサロンの様子

## 各主体の役割と取り組み

### 区の役割と取り組み

#### ○役割

・地域活動に多くの区民が参加し、つながりが生まれるよう、支援・促進事業を推進します。

#### ○区の取り組み

##### 2.1 町会・自治会活動の支援

(区民活動推進課)

事業概要	地域住民の連帯意識を醸成するとともに、地域の課題解決を自主的に担う町会・自治会の日常的な活動を支援します。 コミュニティ推進活動助成（会員数に応じて助成）や掲示板の新設・改修費用の助成、ウェブサイトの開設費用などの助成を行っています。	
	これまでの実績	事業目標（平成 28 年度から平成 32 年度）
	<b>【数値的な実績】</b> （H26） コミュニティ推進活動助成：168 団体、19,162,000 円 コミュニティ掲示板助成：32 団体、4,937,065 円 「わがまち通信局（ウェブサイト）」助成：16 団体、555,041 円 <b>【質的な実績】</b> 助成金により地域コミュニティが向上し、地域活動の活性化、地域での情報共有や情報発信が進んでいます。	<b>【質的な目標】</b> 引き続き町会・自治会への活動支援を行うことにより、町会・自治会によるコミュニティ活動の推進を図っていきます。

● NPO 活動の支援

区民活動推進課

● 区民活動センター（仮称）の整備

厚生課

### 社会福祉協議会の役割と取り組み

#### ○役割

・活動プログラムの提案や、活動の場の提供、経費の助成等を通じて、それぞれの地域の実情にあった地域福祉活動を支援します。

#### ○取り組み

##### 2.2 町会・自治会における地域福祉活動の促進

(社会福祉協議会 地域福祉活動担当)

事業概要	町会・自治会が独自に行う地域福祉活動の経費を助成するなど、町会・自治会における地域福祉活動を促進します。	
	これまでの実績	事業目標（平成 28 年度から平成 32 年度）
	<b>【数値的な実績】</b> 地域福祉活動助成金 168 団体、1,822 万円 168 町会・自治会を訪問し、現状の聞き取りを行いました。 <b>【質的な実績】</b> 助成金により、町会・自治会で見守り・声かけや世代間交流などの福祉活動が実施されました。町会自治会の活動や課題を把握し、課題解決の支援を行いました。	<b>【数値的な目標】</b> 福祉活動の内容に応じた助成金の交付 168 町会・自治会への訪問（年 1 回） <b>【質的な目標】</b> 引き続き町会・自治会の福祉活動の活発化をはかるとともに、地域や組織の課題を発掘し、住民同士で解決できるよう支援します。町会・自治会の活動や課題を把握し、課題解決の支援を行います。

● ボランティア活動に対する支援

ボランティアセンター

● 企業のボランティア活動参加促進

ボランティアセンター

● 小地域福祉活動実践地区の拡大（再掲）

地域福祉活動担当

● ふれあいサロン実施地区の拡大（再掲）

地域福祉活動担当

## 町会・自治会等の役割と取り組み

### ○役割

- ・身近な地域で活動する機会をつくり、住民同士のつながりが豊富な地域をつくれます。

### ○取り組み

必要な取り組み	地域住民が参加しやすいイベントや行事を地域で積極的に行い、魅力的な地域をつくっていきます。
取り組みの実例	ラジオ体操やスイカ割り大会、餅つきや納涼会などのイベントを主催し、つながりが薄くなりがちなタワーマンションにおいても世代や国籍を超えて住民同士が交流していけるよう、工夫しています。[Brillia タワー東京自治会]
	本所警察署と共催で演芸大会（高齢者交通安全のつどい）を開催し、各老人クラブの発表に加えて近隣の保育園の園児も出演するなど、活発に交流しています。[墨田区老人クラブ連合会第一地区]

## 社会福祉法人（福祉施設）の役割と取り組み

### ○役割

- ・福祉資源を活用できる環境を整え、施設のある地域で活動が盛んになるようにします。

### ○取り組み

必要な取り組み	施設や設備、機材等の貸し出しなどを行い、地域活動に協力します。
取り組みの実例	地元の町会の「初笑い」で施設を提供したり、ボランティアセンターからの依頼で貸し出ししたりしています。[菊川保育園]
	無料で地域交流スペースを貸し出し、地元町会の総会や地域の餅つき大会、保育園PTAの会合などに利用してもらっています。[東京清風園（特別養護老人ホーム）]

## NPOの役割と取り組み

### ○役割

- ・地域の課題解決に向け、地域住民と連携して、地域活動を活性化していきます

### ○取り組み

必要な取り組み	地域住民とのつながりをつくり、NPOが取り組む課題について、地域住民と連携して解決していきます。
取り組みの実例	「ふじのきさん家」を運営し、地元の町会と協力して地域コミュニティの活性化、高齢者の孤立防止、地域の防災力向上を図っています。気軽に立ち寄れる地域コミュニティスペースとしての機能を高めています。[NPO法人 燃えない壊れないまち・すみだ支援隊]



## 基本目標3 「区民の積極的な地域活動を進める」 に関する活動を紹介します

前期計画では、「地域福祉に関する情報の周知、理解・参加の促進」を優先的取り組みの一つに掲げ、「すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム」を平成23年度から毎年開催してきました。

地域福祉の担い手として活動をされている方の情報交換・学びあいの場となっており、さらに新たに活動したいと思っている方、興味はあるがなかなか活動につながらなかった方が地域福祉やボランティアに関わるきっかけを得る場となっています。

これまでに開催された第1回から第5回までの様子をご紹介します。

### 平成23年度 ～つなげよう やさしいまちを創る力～

- 日時 平成23年7月10日（日） 13時30分から16時30分
- 場所 すみだリバーサイドホール イベントホール
- 内容
  - ①講演 つなげよう やさしいまちを創る力 ―地域福祉の推進―  
日本福祉大学 社会福祉学部准教授 原田正樹氏
  - ②レポート 「被災地を支える地域福祉活動」  
墨田区社会福祉協議会 堀かおる主事
  - ③パネルディスカッション
    - パネリスト  
墨田区民生委員・児童委員協議会 吉田政美会長／墨田区ボランティアサークル連絡会 小川昭会長  
フレンドリープラザ墨田児童会館 山口修館長／墨田区社会福祉協議会 新井尚恵主事  
たちばな高齢者支援総合センター 山田理恵子係長／向島中学校 鳥海銀河生徒会長
    - コメンテーター 山口稔関東学院大学教授（墨田区地域福祉推進協議会副会長）
    - オブザーバー 行政関係責任者（細川福祉保健部長）
- 活動PR、交流コーナー 民生・児童委員活動、小地域福祉活動、ボランティアグループ活動など
- 参加団体数 26団体 ●来場者数 約400名



### 平成24年度 ～みんなでつくる ひとつながる やさしいまち～

- 日時 平成24年6月30日（土） 13時30分から17時
- 場所 すみだ中小企業センター
- 内容
  - ①講演 地域福祉の実践とボランティア活動  
神奈川県立保健福祉大学名誉学長 阿部志郎氏
  - ②トークセッション  
墨田区における地域福祉の実践とボランティア活動  
○パネリスト 小地域福祉活動実践者 本田滝男氏  
おもちゃサロン実践者 山本文子氏／青年ボランティア実践者 稲村達朗氏  
○コーディネーター 東京ボランティア・市民活動センターアドバイザー 安藤雄太氏
  - ③課題別交流会  
「みんなで考えよう。小地域福祉活動」「どうつなげる？どう育てる？ボランティア」  
「誰もが安心して暮らせるまちとは？」「おもちゃサロンを見てみよう！」
- 活動PRコーナー  
ボランティアグループ活動、民生・児童委員活動、小地域福祉活動、やさしいまち宣言など
- おもちゃサロン（和室）  
来場者の子どもを預ける場所として実施するほか、おもちゃサロンの紹介をする。
- 参加団体数 26団体 ●来場者数 約300名



## 平成 25 年度 ～ 人がつながれば 何かが変わる ～

- 日時 平成 25 年 7 月 6 日（土）13 時から 17 時
- 場所 すみだリバーサイドホール
- 内容
  - ①基調講演（すみだリバーサイドホール）  
「人がつながれば 何かが変わる」 神戸市社会福祉協議会 長谷部 治 氏
  - ②ボランティア活動紹介タイム  
展示ブース：福祉関係団体、区民活動、環境、教育支援などの団体
  - ③分科会  
「被災後の生活を共に“つむぐ”～石巻 牡鹿半島にて～」  
「銭湯でつながる地域の“和”～お湯も人情もアツいくらいがいい～」  
「経営者が求める 3 つのこと～ここが知りたい！「つながるチカラ」～」  
「ふじのきさん家 ひきふね寄合い処～地域防災力や絆を強める居場所づくり～」  
「みんなで育てる地域プラザ～誰もが楽しめる居場所をめざして～」  
「多文化共生社会」の実現にむけて～日本語ボランティア教室を通して～  
「小さな気づきが大きな力に～あたりまえの支えあい運動～」
- 参加団体数 29 団体 ●来場者数 約 450 名



## 平成 26 年度 ～ 笑顔につながるはじめての一步 ～

- 日時 平成 26 年 7 月 5 日（土）12 時 30 分から 17 時
- 場所 すみだリバーサイドホール他
- 内容
  - ①プレトーク 「すみだの地域社会を作った先人から何を学ぶか」  
講師：日本社会事業大学 社会事業研究所 共同研究員 鈴木 みな子 氏
  - ②パネルディスカッション 「地域の《わ》をひろげよう」  
ひきふね図書館パートナーズ／民生委員・児童委員 齋藤 正樹氏  
中村仲製作所 中村 敬氏／元小梅小・墨田中 P T A 会長 菊地 修氏  
明治学院大学ボランティアセンター 市川 享子氏
  - ③ボランティア活動紹介・体験タイム  
展示ブース：福祉団体、区民活動、リサイクル、教育支援などの団体
  - ④分科会  
「子どもたちが豊かに育つまち～新しくなる子育て支援制度の中で～」  
「誰もが安心して暮らせるまち～高齢者を支える取り組みをきっかけに～」  
「聞いて話してつながろう～ワールドカフェ型広場～」
  - ⑤両国中学校吹奏楽部 ミニコンサート
- 参加団体数 25 団体 ●来場者数 約 350 名



## 平成 27 年度 ～ 地域を支えるボランティアの輪をひろげよう ～

- 日時 平成 27 年 7 月 4 日（土）13 時から 16 時 30 分
- 場所 すみだリバーサイドホール
- 内容
  - ①すみだボランティアセンター開設 30 周年記念式典
  - ②講演会「地域福祉を創る～自分らしく暮らすために～」  
講師：福祉ジャーナリスト（元 NHK 福祉ネットワークキャスター）町永俊雄氏
  - ③地域活動事例紹介「さんあずサロン（拠点型ふれあいサロン）」  
発表者：民生委員・児童委員 皆川 仁 氏  
ナビゲーター：社会福祉法人墨田区社会福祉協議会 大倉 祐子 氏
  - ④フォーラムディスカッション「あったらうれしい地域の取り組み」～みんなで話そう～
- 来場者数 約 400 名

